



日本心理学会第89回大会公募シンポジウム



宗教を信じる（信念、信仰）とはいかなることか？
—実証的宗教心理学の挑戦（4）—

Faith toward Religion: What does it mean to believe?
—The challenges facing the field of psychology of religion (4)—

「『信念・信仰』から宗教性は捉えられるか」

西脇 良
(南山大学)

発表の趣旨・目的

「信念・信仰」の枠組みでは捉えきれない日本人の宗教性について検討する。新たな枠組み構築の手がかりとして、2つの視点：

「**宗教的自然観**」に関する実証研究

「無宗教」現象 うち **Religious Indifference**

(**宗教的無関心**)

をとりあげ、宗教性にかかわる心理学的研究を補完する

発表順序

- ① 国際比較調査からみる日本人の宗教性
- ② 「宗教的自然観」に関する実証研究
- ③ Religious Indifference（宗教的無関心）
- ④ まとめ

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

宗教性(religiosity)

Glock & Starck (1965)

- ▶ 信念的 ideological 次元
- 儀礼的 ritualistic 次元
- 経験的 experiential 次元
- 知識的 intellectual 次元
- 結果的 consequential 次元
(社会的態度・ライフスタイル)

Saroglou (2011) 4Bmodel

- ▶ 信念 believing 次元
- 行動 behaving 次元
- つながり bonding 次元
- 帰属 belonging 次元
(宗教アイデンティティ)

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

宗教性を捉える国際比較調査例

World Values Survey (WVS)

▶ International Social Survey Programme (ISSP)

– Religion Modules

Pew Research Center – Religion & Public Life

European Values Study (EVS)

Gallup World Poll

(他にWHOQOL-SRPB (Spirituality, Religiousness and Personal Beliefs)

Modules)

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

ISSP 2018 Religion IV 項目群 (4Bモデルによる分類例)

Believing (信念)

- V20 神の存在 ◀
- V21 神信仰 (過去と現在)
- V22-26 超自然信念 (死後・天国・地獄・奇跡・祖先霊) ◀
- V27-32 人生観 (意味・運命・神の計画) ◀

Bonding (つながり/宗教経験)

- V43 祈りの頻度
- V44 宗教活動への参加
- V47 聖地巡礼
- V48 信仰心・信心

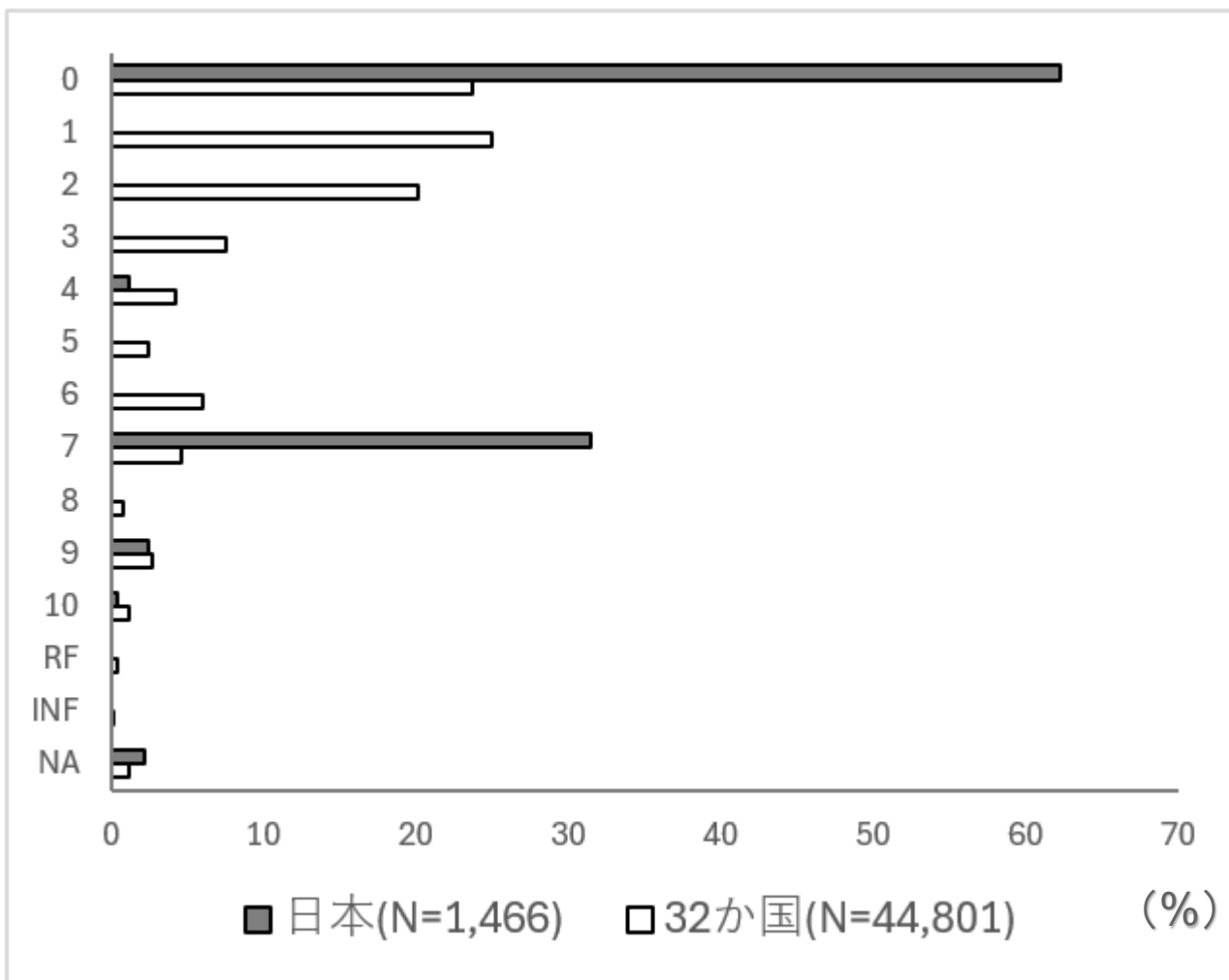
Behaving (行動)

- V40-42 幼少期の礼拝頻度 (母・父・本人)
- V45 宗教的読書
- V46 家庭祭壇等
- JP_LOCAL1-4 神棚・仏壇・初詣・お盆墓参

Belonging (帰属)

- V33 宗教内での男女平等
- V35 父親の宗教
- V37 母親の宗教
- V39 自分の宗教 ◀
- V49 宗教/スピリチュアル/無宗教(アイデンティティ)

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性



- 0 無宗教 (No religion)
- 1 カトリック
- 2 プロテスタント
- 3 正教会
- 4 その他のキリスト教
- 5 ユダヤ教
- 6 イスラム教
- 7 仏教
- 8 ヒンドゥー教
- 9 その他のアジアの宗教
- 10 その他の宗教

Q「あなたは、ふだん信仰している宗教がありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください」
の他の宗教／信仰している宗教は
ない

(ISSP 2018 Religion IV RELIGGRP)

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

Q () あなたには、ふだん信仰している宗教がありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
い。 () 仏教 / 神道 / キリスト教 / その他
の () 宗教 / 信仰している宗教は
ない ()

JP_RELIG

Value	Label	Missing	Count
0	No religion		913
4	Other Christian		17
7	Buddhist		461
10	Other Religions		7
11	Shintoism		36
990	NAP, other countries	M	44801
999	No answer	M	32

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

Q) 「次のAからEにあげたことがらはあると思いますか、それともないと思いますか。
A～Eそれぞれについて、あなたのお気持ちに一番近い番号に1つずつ○をつけてください。」

A) 死後の世界 B) 天国 C) 地獄 D) 宗教的奇跡 E) 祖先の霊的な力

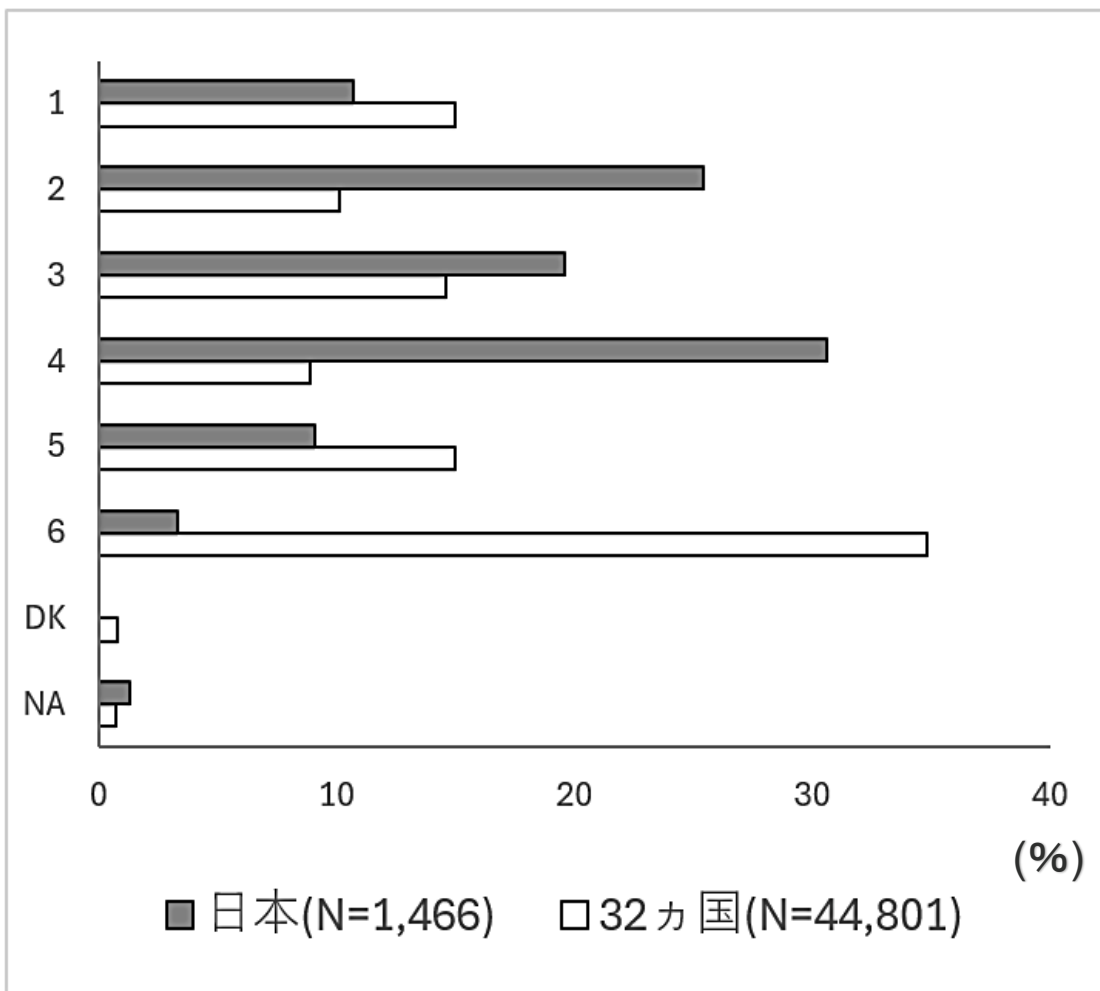
Table 1
宗教的信念の比較(1)

	絶対にある		たぶんあると思う		たぶんないと思う		決していない		DK		NA	
	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国
死後の世界	5.3	25.6	32.1	25.3	25.7	19.7	8.4	20.1	27.6	7.9	0.9	1.3
天国	4.6	25.6	27.1	22.4	27.6	19.1	9.5	23.9	29.9	7.4	1.2	1.6
地獄	3.9	20.8	22.2	18.8	31.0	20.9	10.4	30.2	31.2	7.6	1.2	1.8
宗教的奇跡	2.5	21.9	12.2	25.4	33.2	20.3	18.3	24.4	32.5	6.2	1.4	1.7
祖先の霊的な力	5.6	12.1	33.6	21.3	22.8	24.0	9.3	32.3	27.6	8.5	1.2	1.8

(ISSP 2018 Religion IV v22-26)

(%)

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性



- 1 神の存在を信じていない
- 2 神が存在するかどうかわからないし、存在するかどうかを明らかにする方法もないと思う
- 3 神がいるとは思わないが、何か超越的な力はあると思う
- 4 神の存在を信じる時もあるし、信じていない時もある
- 5 神存在に疑問を感じることもあるが、神は存在すると信じている
- 6 私は、実際に神が存在することを知っており、神の存在に何の疑いも持っていない

Q) 「あなたは、神について、日ごろどのようにお考えですか。あなたのお考え一番近い番号に1つだけ○をつけてください。」

(ISSP 2018 Religion IV v20)

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

Q) 「次のAからFのような考え方について、あなたはどのように思いますか。 A～Fそれぞれについて、あなたのお気持ちに一番近い番号に1つずつ○をつけてください。」

- A)すべての人に神は存在している
 B)人が自分自身の運命を変えることは不可能である
 C)神が存在するからこそ、私の人生には意味がある
 D)人生には何の目的もないと思う
 E)自分自身で意味を見つけだしてこそ、人生は意味のあるものになる
 F)神社や教会、礼拝などに頼らなくても、神とつながる私なりの方法がある

- 1 そう思う
 2 どちらかといえば、そう思う
 3 どちらともいえない
 4 どちらかといえば、そうは思わない
 5 そうは思わない
 6 DK
 7 NA

Table 2
宗教的信念の比較(2)

	1		2		3		4		5		6		7	
	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国	日本	32か国
A)	4.9	18.2	11.3	23.9	24.1	17.1	10.6	15.2	20.0	18.1	27.8	6.0	1.3	1.4
B)	4.8	5.4	5.7	17.2	18.3	15.5	19.9	33.4	35.8	23.9	14.0	3.5	1.4	1.2
C)	2.0	10.4	4.5	16.6	14.8	16.5	12.3	21.9	44.4	29.0	20.5	4.3	1.4	1.4
D)	1.7	3.1	2.1	8.4	9.8	13.3	15.8	33.4	57.6	36.1	11.3	4.3	1.7	1.5
E)	28.2	26.4	36.4	42.5	12.4	14.8	3.2	7.7	4.4	3.6	13.8	3.8	1.6	1.2
F)	5.7	16.2	9.6	28.1	15.6	17.8	4.9	13.8	22.4	15.5	40.2	6.7	1.6	2.0

① 国際比較調査からみる日本人の宗教性

宗教性(religiosity)を「信念・信仰」／Believingの観点で捉えようとすると、比較的「**わからない**」(DK, Can't choose) 回答率が高くなる



別の「**アンテナ**」が必要ではないだろうか？



別の index of religiosity (宗教性指標) の模索



「**宗教的自然観**」「無宗教 (うちreligious Indifference) 」

②「宗教的自然観」に関する実証研究

林 (1999).

- ・「人間／自然重視」「**神秘感**」「人間関係の信頼感」から**自然観の構造**を捉え、分析により4タイプを見出す
- ・神秘感の低いタイプも「宗教的な心は大切」「神社・寺・教会であらたまった気持ち」が高い

下川・廣瀬 (2017).

- ・「**宗教・自然観尺度**」を構成。6因子（「神仏の存在」「神秘性」「自然との一体感」「自然保護」「自然の脅威」「自然の恩情」）

②「宗教的自然観」に関する実証研究

西脇 良 (2004). 日本人の宗教的自然観 ミネルヴァ書房

- ・心理学的構成概念として、あらたに「宗教的自然観」を提案

- ・特徴：①対自然認識と対自己認識とが循環していく構造

ex. 「なにごとの おわしますをば しらねども

かたじけなさの なみだこぼるる」

- ・特徴：②3400名の自然体験記述データより抽出 → コード化

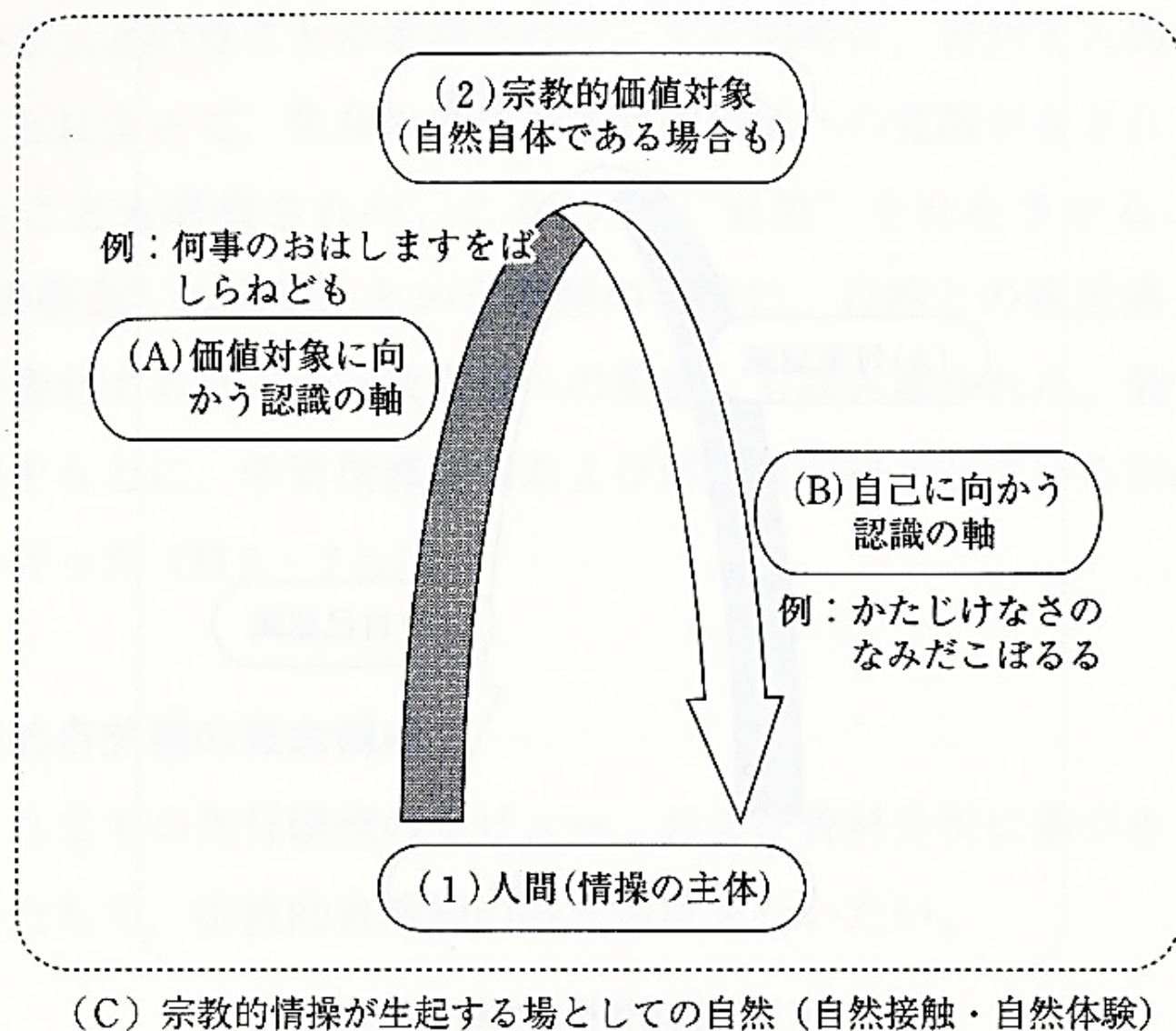


図 2-9 宗教的自然観の基本的枠組み

Table 3

宗教的自然観の概念内容

宗教的価値対象(への認識)

(1)実在性をさして用いられる表現

(e.g. 神, 神々, 仏, 霊, 靈魂)

(2)価値をさして用いられる表現

(e.g. 大いなるもの, 偉大なもの, 人間の力を超えたもの, 生命, 永遠, 無限)

自己認識および感情

(1)自己の存在の在り方についての認識

(e.g. 自己存在の有限性, 無力さ, 生きている喜び, 自然に癒される自己)

(2)宗教的感情

(e.g. 畏敬, 神秘感, 感謝, 謙虚, 懺悔)

Table 4

宗教的自然観の順位

順位 a)	コード番号	名称(分類Ⅲ)	% b)	全体順位 c)		順位 a)	コード番号	名称(分類Ⅲ)	% b)	全体順位 c)	
1位	B-7-1	小ささ・無力さ	4.6	14位	平均以上	17位	B-7-5	死生観	0.5	80位	
2位	A-7	生命認識	4.4	15位		18位	A-4-2	神による自然創造	0.3	92位	
3位	B-3-1	神秘感	4.0	17位			A-6-2	生命	0.3		
4位	B-8-2	時間・空間の感覚変調	3.0	24位			B-3-2	神聖感	0.3		
5位	B-3-7	悩みの軽減	2.7	28位			B-8-3	幻視的体験	0.3		
6位	A-4-1	宗教的存在	1.8	36位	平均未満	22位	B-3-3	感謝	0.2	103位	
7位	B-3-6	浄化・純粹	1.8	37位			B-3-4	無常感	0.2		
8位	B-8-1	言語表現不可能性	1.7	39位			B-3-5	無心	0.2		
9位	A-4-4	偉大さ	1.2	51位		25位	A-6-3	親	0.1	111位	
	A-6-1	力	1.2				B-3-8	申し訳なさ・罪悪感	0.1		
11位	B-7-2	存在の不思議さ	0.9	58位			B-3-9	赦され感	0.1		
	B-7-3	存在の喜び	0.9			28位	A-6-4	友	0.0	124位	
13位	B-7-4	共生・一部・本来性	0.7	68位							
14位	A-4-3	祈願	0.6	72位							
	A-4-5	永遠・無限	0.6								
	B-8-4	その他の神秘的体験	0.6								

a) 宗教的自然観全28コード中での順位

b) 回答者3446名中の比率

c) 自然観124コード中での順位

平均以上

平均未満

a) 宗教的自然観全28コード中での順位

b) 回答者3446名中の比率

c) 自然観124コード中での順位

②「宗教的自然観」に関する実証研究

課題

Spirituality との概念整理

構成概念「宗教的自然観」をもとに測定尺度を作成

質問紙／インタビュー以外の調査方法の模索

③ Religious Indifference に着目して

宗教性(religiosity)を「信念・信仰」／Believingの観点で捉えようとすると、比較的「**わからない**」(DK, Can't choose) 回答率が高くなる



別の「**アンテナ**」が必要ではないだろうか？

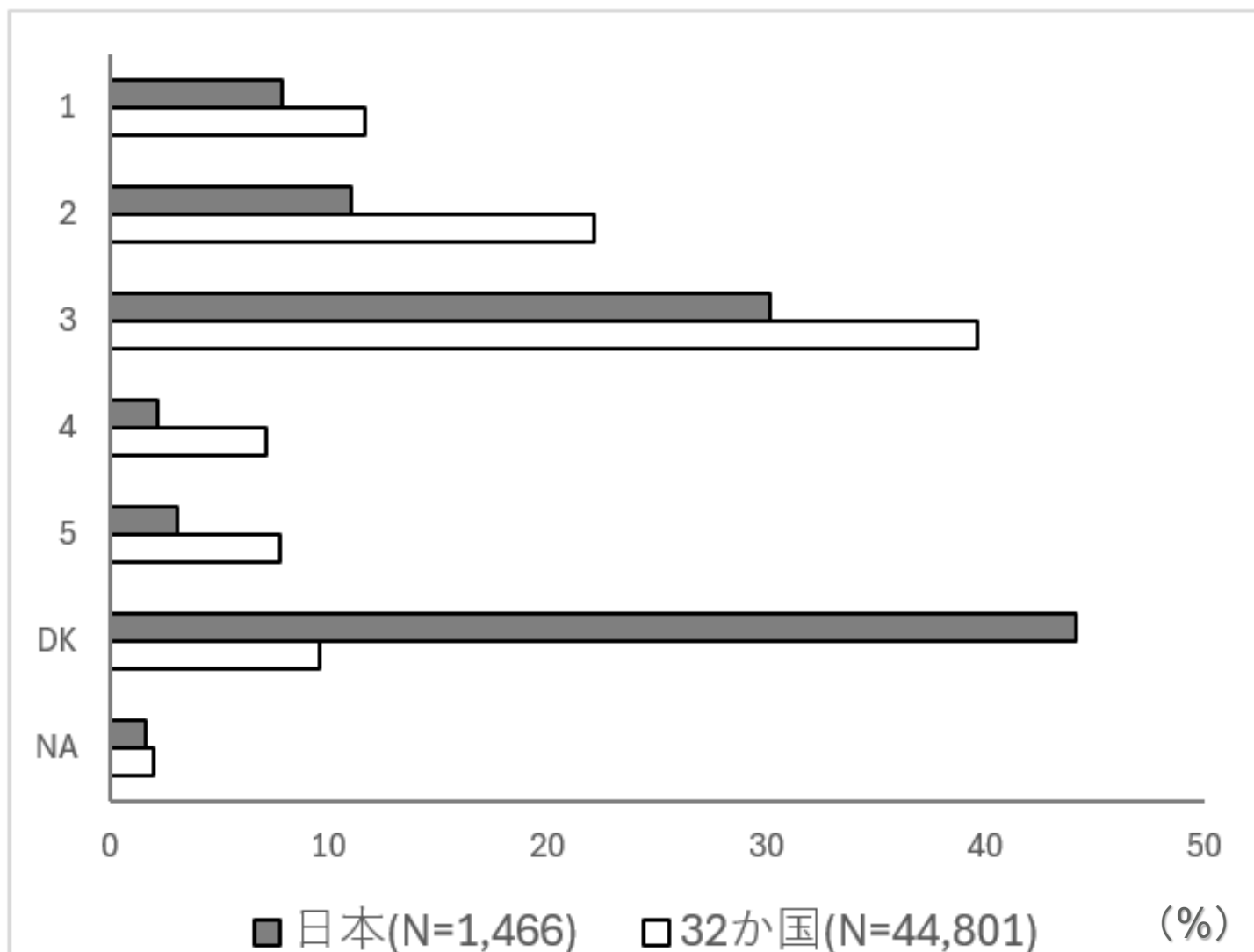


別の index of religiosity (宗教性指標) の模索



「**宗教的自然観**」「無宗教 (うちreligious Indifference) 」

③ Religious Indifference に着目して



- 1 肯定的な印象
- 2 どちらかといえば、肯定的な印象
- 3 どちらかといえない
- 4 どちらかといえば、否定的な印象
- 5 否定的な印象
- 8 DK
- 9 NA

Q) 「あなたは、次のAからFにあげる人たちに対して、どのような印象を持っていますか。」

F 「無神論者や無信仰者」

(ISSP 2018 Religion IV v62)

③ Religious Indifference に着目して

質問紙調査レベルでの回答

「信じていない」「無宗教である」「わからない」「どちらともいえない」etc.

これまで議論の枠外に置かれていなかっただろうか？



- ▶ このような回答反応の背後にどのような心性を想定できるのか
- ▶ religiosity と どのような関係にあるのか
(not religious といえるのか)

③ Religious Indifference に着目して

世俗化・制度からの離脱

Secularism

Secularization

Laicism *Post-religion*

Deconversion *Irreligion*

Religiosityの対語／対極にある語(例)

無関心の立場

Apatheism *Non-religion* *Religious indifference*

不可知論的立場

Agnosticism *Skepticism* / *Religious skepticism*

Agnostic theism *Agnostic atheism*

否定的立場

Atheism *Nontheism* *Disbelief* *Godlessness*

反宗教(anti-religious)

Anti-religion *Antitheism* *Misotheism* *Dystheism*

③ Religious Indifference に着目して

Quack, J., & Schuh, C. (Eds.). (2019). *Religious Indifference : New Perspectives from Studies on Secularization and Nonreligion*. Springer.

「宗教的無関心とは、宗教のさまざまな側面が生活にとって重要でも中心的でもなくなった」状態をさす (Quack & Schuh, 2017, p.10)

- ・ 無関心は制度的宗教からの距離を示しており、敵意や拒絶を意味しない
- ・ 宗教と直接の関係を欠きつつも、**宗教的あるいは非宗教的立場との関連**において位置づけられるべき
- ・ **絶対的無関心**だけでなく、**相対的無関心**（伝統的な宗教性の特定の側面に対してのみ無関心）もある

③ Religious Indifference に着目して

Brechon(2019)

- ・EVS(European Values Study)・ISSP調査データを用いて
複数の国における無宗教を検討
 - 世俗化プロセスは宗教の消失や無神論の高まりというより
むしろ宗教への関心の喪失
 - Religious Indifference の人々は、宗教的な人々と無
宗教である人々の間に位置する

① Religious Indifference に着目して

Q)「あなたの生活にとって神はどの程度重要ですか。『1』は『全く重要でない』を、また『10』は『非常に重要』を示すとします。1から10までの数字で当てはまるものをつお答えください。」

Table 5
生活における神の重要度

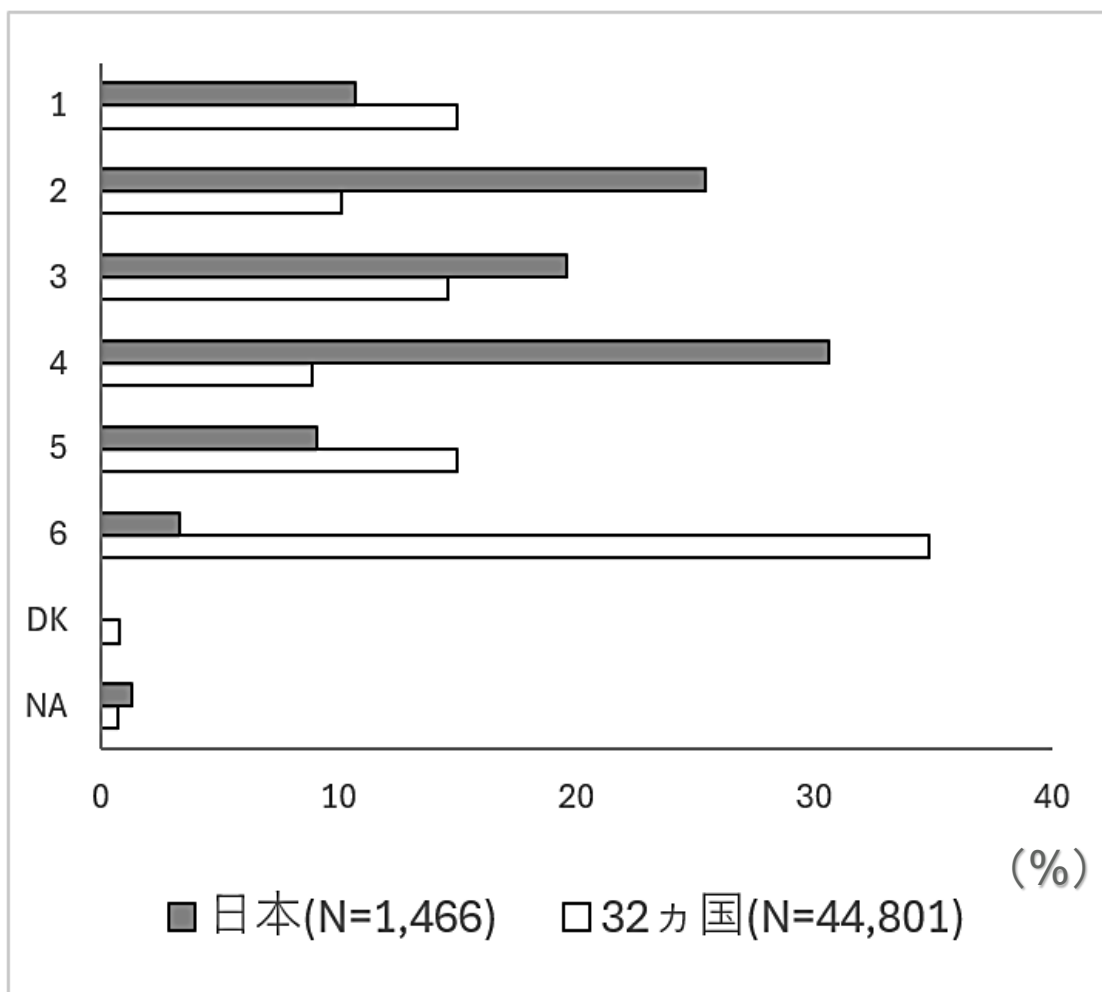
	全く重要でない										非常に重要		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	DK	NA	MIS
日本(N=1,353)	16.3	10.1	11.7	6.1	15.9	9.6	8.4	7.0	2.4	4.8	6.36	1.55	—
64か国(N=94,667)	10.9	3.3	3.3	2.6	7.1	5.3	5.8	7.3	5.7	47.7	0.43	0.35	0.22

注)本項目はイラクでは採用されていない

(WVS Wave7 (2017-2022) Q167)

(%)

③ Religious Indifference に着目して



- 1 神の存在を信じていない
- 2 神が存在するかどうか分からないし、
存在するかどうかを明らかにする方法もないと思う
- 3 神がいるとは思わないが、何か超越的な力はあると思う
- 4 神の存在を信じる時もあるし、信じていない時もある
- 5 神存在に疑問を感じることもあるが、神は存在すると信じている
- 6 私は、実際に神が存在することを知っており、神の存在に何の疑いも持っていない

Q) 「あなたは、神について、日ごろどのようにお考えですか。あなたのお考え一番近い番号に1つだけ○をつけてください。」

(ISSP 2018 Religion IV v20)

① Religious Indifference に着目して

Keysar (2014)

- Religiosity(belief/behavior/belonging)
× 回答YES/NO で8カテゴリーに分類

→ Religious Indifference は“Fuzzy Middle”を含む複数のカテゴリーに入るか

Lee (2014)

- 「無宗教」の社会的・文化的アイデンティティを質的に研究
- イギリスの「nonreligious」回答者へのインタビュー調査
→ 「運命」や「スピリチュアルな力」を信じる人が少なくなかった

④ まとめ

- ・心理学における宗教性研究は曲がり角に来ている
- ・制度的／組織的宗教で語られる宗教性を提示してその反応をもとに宗教性を検討するスタイルに加え、別の宗教性指標を模索する時期
- ・「わからない」回答→どう訊ねれば「わかる(I Know)」のか
- ・Spirituality研究は宗教性研究を補完しているともいえる
 - ▶ ①宗教的自然観研究の可能性
 - ▶ ②多様な「無宗教」(一例として Religious Indifference)形態へのアプローチ

④ まとめ

▶ 進行中のプロジェクト ◀

「ユダヤーキリスト教的文脈の**脱構築**を試みる

宗教性／スピリチュアリティの実証的研究」プロジェクト

・2021年7月発足。宗教性に関心のある多様な領域(概念・実証・現場)の研究者／実践家によるチーム

・現在「日本人の宗教性尺度総まとめプロジェクト」が進行中

▶ ①(**民俗宗教性**・「**無宗教**」等を考慮した)「**新たな宗教性尺度の開発**」

▶ ②「宗教／スピリチュアリティに関する論文の**データベース**の構築」

(DBは2026年3月公開予定)

・実証的宗教心理学領域におけるインフラ作り・土台作り

29・実証的宗教心理学を起点とする「日本発の理論構築」へ

<引用文献>

- Bréchon, P. (2017). Measuring religious indifference in international sociological quantitative surveys (EVS and ISSP). In J. Quack & C. Schuh (Eds.), *Religious indifference: New perspectives from studies on secularization and nonreligion* (pp. 143–170). Springer.
https://doi.org/10.1007/978-3-319-48476-1_9
- Glock, C. Y., & Stark, R. (1965). *Religion and society in tension*. Chicago, Rand McNally.
- 林 文 (1999). 意識調査からみた日本人の自然観——自然観の意識構造と若者の意識—— 人文・社会科学論集(東洋英和女学院大学), 15, 31–51.
- ISSP Research Group. (2020). *International Social Survey Programme: Religion IV – ISSP 2018* [Data set]. GESIS Data Archive.
<https://doi.org/10.4232/1.13560>
- Keysar, A. (2014). Shifts along the American religious-secular spectrum. *Secularism and Nonreligion*, 3(1), 1–16. <https://doi.org/10.5334/snr.am>
- Lee, L. (2014). Secular or nonreligious? Investigating and interpreting generic “not religious” categories and populations. *Religion*, 44(3), 466–482.
<https://doi.org/10.1080/0048721X.2014.904035>
- 西脇 良 (2004). 日本人の宗教的自然観 ミネルヴァ書房
- Quack, J., & Schuh, C. (Eds.). (2017). *Religious indifference: New perspectives from studies on secularization and nonreligion*. Springer.
<https://doi.org/10.1007/978-3-319-48476-1>
- Saroglou, V. (2011). Believing, Bonding, Behaving, and Belonging: The Big Four Religious Dimensions and Cultural Variation. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 42(8), <https://doi.org/10.1177/0022022111412267>
- 下川 遥子・廣瀬 直哉 (2017). 児童期後期における子どもの自然観 生態心理学研究, 10(1), 13–22. https://doi.org/10.24807/jep.10.1_13
- World Values Survey Association. (2022). *World Values Survey: Wave 7 (2017–2022)* [Data set]. JD Systems Institute.
<https://www.worldvaluessurvey.org/WVSDocumentationWV7.jsp>